



『平家物語』における安徳天皇関連説話の研究 (2022年度修士論文要旨)

許, 曉婷

(Citation)

國文論叢別冊, 1:114-115

(Issue Date)

2023-09-30

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100483222>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100483222>



『平家物語』における安徳天皇関連説話の研究

許 曉婷

本論文は覚一本『平家物語』における安徳天皇の誕生場面について論ずる。平清盛と後白河院をつなぐ建春門院の死後、後白河院が自身の皇子を高倉の猶子にしようと画策するなど、清盛・後白河院双方にとって高倉天皇の「次」をめぐる構想が交錯する中で、治承二年（一一七八年）十一月十二日、安徳天皇が誕生し

（『山槐記』、『玉葉』の記事による）、同年十二月十五日に立太子にされた。治承四年（一一八〇年）三歳（実は一歳）で即位。政治の補佐は外祖父としての平清盛が取り仕切り、平家一門は栄華を極めていた。複雑な政治勢力と権力の奪い合いの渦に巻き込まれた安徳天皇は、まだ幼く、寿永二年（一一八三年）七月二十五日、源義仲の入京の最中、平家都落ちによって西海に伴われた。元暦二年（一一八五年）三月二十四日、最後の決戦である壇ノ浦の戦いで平氏は敗北し、一門の滅亡に至る。安徳天皇は、神璽と宝剣

を身に付けた外祖母二位尼に抱かれ、壇ノ浦に身を投じた。

然るに壇ノ浦合戦の中の安徳天皇の最後に関しては、各史料の記述が異なっている。そのため、史実と物語の間に安徳天皇に関わる記事の虚像と実像に対して関心を持ちはじめ、安徳天皇の研究を思い立った。

本研究の課題は二つある。安徳天皇を論じた諸先学は、入水場

面に並記されている安徳天皇の二種類の姿に關して、また、『平家物語』全体における安徳天皇の役割について研究してきた。先学の指摘を踏まえ、筆者は一つ目の課題として、『平家物語』における安徳天皇誕生の記事に注目し、研究を行った。また、数多くの先行研究は安徳天皇の死と死に至る原因について言及してきた。本研究は二つ目の課題として、母である建礼門院に関わる記事を井上内親王に関する説話と比較し、安徳天皇が竜宮城に堕ちた理由について改めて論じた。

本論文の序章は、延慶本、源平盛衰記と覚一本における安徳天皇入水の場面に着眼し、諸本の異同点を明かにした。そして、史実における安徳天皇の最後に関わる記事を列挙し、物語と史料との異同点を明らかにした。また、安徳天皇を論じた諸先学について紹介した。諸先学は、入水場面に並記されている安徳天皇の二種類の姿に關して、また、『平家物語』全体における安徳天皇の役割について研究されている。

第一章は『平家物語』における安徳天皇誕生の記事に注目し、先学の指摘を踏まえて、研究を行なった。延慶本、『源平盛衰記』と覚一本における、徳子入内から懷妊、御産までの記事と比較し、その異同点を明かにした。その中に一番注目しているのは、安徳天皇の誕生の場面（『御産』）である。諸本の異同点、また、歴史資料『山槐記』や『玉葉』などを参照し、諸本における安徳天皇の誕生の記事では、時忠の役割が抹殺されていること、実際には行われなかった「変成男子」法が行われたかのように語られていること、「甌落とし」の儀式について、史実とは異なる意味付けが与えられていることについて指摘した。

第二章は延慶本と『源平盛衰記』における建礼門院の六道語りについて考察を行なった。その中で、女院は畜生道を語った時、古今東西の高貴な男女のスキヤンダルに言及した。そして、自分も近親相姦の罪を犯したと告白した。覚一本はこのスキヤンダルに関わる部分を削除したが、「御産」に怨霊の崇りの恐ろしさと鎮魂の重要性を描いた記事の例として井上内親王の話を引用した。筆者は、井上内親王説話と『平家物語』における建礼門院の脈絡を比較し、その共通点を明かにした。母が禁忌的な関係に巻き込まれたせいで、息子も連座を余儀なくされ、龍になるという共通した物語の流れが伺える。また、折口信夫氏の論を踏まえて、改めて貴種流離譚の話型のもとに検討した。

本論文の最後では、今後の課題を提起する。安徳天皇誕生場面における時忠と重衡の役割について詳しく論じられなかったこと、安徳天皇誕生場面の後半に描かれた陰陽頭時晴の記事について詳しく論じられなかったこと、覚一本における安徳天皇の造形について論を立てる際に、十分な根拠を示せなかったことの三点である。これらを今後の課題として、研究を続けていきたい。

(きよ ぎょうてい)